

書店員 おすすめの本

リプロ福岡天神店店長 野上由人さんおすすめ



小林傳司著『トランス・サイエンスの時代 科学技術と社会をつなぐ』
(NTT出版ライブラリー・レゾナント)

科学の言葉を 読み解く



「3・11」以後、原子力や電力の専門家が説明したが、言葉の意味からして分からない。そんな状況で社会の中の科学をどう捉えればよいのか。科学者の言葉に対するリテラシー(活用能力)を身につけ、考え方を考える気付きになる書籍。

高度な科学技術は社会の私たちに身近な部分で使われている。だが一般の人は知らずに過ごしたり、関係ないと思っていたりする。例えば原発に問題があると思っただけで、分からないから考えないようにしていたこともある。

科学は政治や経済に比べると分かりにくい。科学として正しいのか、社会にとって正しいのか、あるいは科学がどういう意味を持つのか、知らないことへの怖さがある。抽象度が高い問題だが、高速増殖炉「もんじゅ」や遺伝子組み換えなどの実例で説明している。

震災前に出版された書籍だが、原発事故などを経て、いまあらためて読んでとても響く一冊だ。

長い夏休みこそ… 大作に挑戦

まとまった休みが取りやすい季節がやってきた。子供のころは宿題の読書感想文に頭を悩ませたという人もいるだろう。年齢を重ね、読書の楽しさが分かり始めた今こそ、自分の知的好奇心のままに、興味のある分野の本とことん読み込んでみるのも良いのでは。長期休暇向けの読み応えがありそうな一冊を書店員の皆さんに紹介してもらった。

ブックスキューブリック箱崎店店長 大井実さんおすすめ

増田俊也著『木村政彦はなぜ力道山を殺さなかったのか』(新潮社)

この本は事件

700ポ2段組のノンフィクションにもかかわらず、増刷を重ねて17刷り。ちょっとした事件だ。発売時から話題で書評を通じて人気が出た。1917年に熊本県に生まれ、日本柔道史上最強と呼ばれた木村政彦。強じんな肉体と「負けたら腹を切る」という精神で、戦前から戦後を通して戦い抜いた柔道家だ。15年間不敗や13年連続日本一、天覧試合制覇など輝かしい記録を持つ。

プロレス転向後の54年に、人気絶頂だった力道山と「昭和の嵐流島」を戦う。最強同士の決戦に全国民の注視が集まった。引き分けが約束されていたが、力道山の裏切りで木村は簡単に敗れ、表舞台から姿を消す。木村はなぜ敗れたのか、そして屈辱の中でなぜ力道山を殺さなかったのか。

空手家・大山倍達らも登場。多くの文献や証言を基に、戦後の武道や格闘技、プロレスの歴史とともに木村の人生を描いた超大作だ。



丸善博多店 安高啓介さんおすすめ

勢古浩爾著『最後の吉本隆明』(筑摩書房)



戦後最大の思想家と称される吉本隆明氏。残念ながら2012年3月になくなったが、その考え方に触れたいという声に応えて本の出版も続いている。本書は吉本氏の生前は知っていたけれど、読んだことはないという人にお薦めだ。

本書は吉本氏の生い立ちからその生き方を紹介している。吉本氏が書いた本は内容が難しい。途中で読むのをやめてしまったという人もいるだろう。そんな人たちに著者の勢古さんは、自分も実は良く分からなかったと告白し「本は読まなくてもいい。吉本さんの生き方を見よ」と訴える。

吉本さんの残した言葉は数多くあるが、読んだ人なりに、引かかると言葉、気になる言葉があるはず。私自身、自分が暗い人間だとネガティブになっていた時期がある。しかし吉本さんが「自分も実は暗い人間だけど、そんな人ほど他人の気持ちがよく分かる」と述べていたことがあり、大変共感を覚えた記憶がある。特に若い世代に手にとってほしい一冊だ。

カリスマの 声を聞け



日刊工業新聞で 不況を克服!

どのジャンルに、どの切り口に、
ビジネスチャンスがあるかわからない…。



1週間無料試読、購読のお申し込みは 0120-817120 1ヵ月購読料 4,590円(税込) 土日休刊